

P-288

妊娠前における患者教育「40 代からの不妊治療～不妊治療・妊娠・出産について知っておきたいこと～」を開催して

中西佳与（ナカニシ カヨ）1）、

太田恭子 1）、茅切純子 1）、浅井麻利子 1）、皆吉田津子 1）、中岡義晴 1）、森本義晴 2）

1) IVF なんばクリニック、2) HORAC グランフロント大阪クリニック

目的

日本では晩婚化や治療の長期化により 40 代の不妊治療患者は多い。妊娠率の低下、流産率の上昇により治療が長期化しやすい傾向や、妊娠中の合併症リスクも高い反面、治療中に治療後の生活を考える機会がほとんどない。よって、治療中から妊娠するしないに関わらず身体面や精神面でのセルフケアの重要性や治療後のライフプランについて考えてもらうための勉強会を開催したので報告する。

対象と方法

当院で不妊治療中の 40 歳代女性と夫を対象とした。看護師から 40 代の不妊治療の現状や妊娠・出産のリスクとその予防の講義、育児期間の年齢シミュレーションを行った。栄養士から食事や生活習慣の講義を行い、会終了後に無記名自記式質問紙調査を行った。調査は任意回答とし、個人が特定できないよう倫理的配慮を行った。

結果

29 名（夫婦 11 組）が参加した。参加理由は、年齢による不安（5 名）、治療が長引いてきた（5 名）、何かできることがあれば知りたい（9 名）などがあつた。

今後取り組んでみたいことは、食事の見直し(17 名)、運動・生活リズムの改善（8 名）ライフプランについて考える時間をとる、夫婦でライフプランを話し合う機会を増やすなどがあつた。その他の感想として、ライフプランについて考えることは辛いが大切な事だと理解している、ライフプランについて少しずつ向き合っていきたい、また機会があれば参加したいなどがあつた。

考察と今後の課題

今回の参加者は年齢因子による現状を把握した上で不妊治療を選択しており、治療中からセルフケアの必要性を理解してもらうことが妊娠出産に伴うリスク軽減の一助となると考える。さらにライフプランを考えることは、治療後の生活/将来に目を向ける機会となり、納得した治療選択に繋がるとわかつた。今後も引き続き患者教育を行っていくと同時に、40 代患者を対象とした同内容の冊子等を作成し患者が納得した治療選択ができるよう努めていきたい。